

# vRealize Automation 8.7 リリースノート

vRealize Automation 8.7

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>)

**VMware, Inc.**  
3401 Hillview Ave.  
Palo Alto, CA 94304  
[www.vmware.com](http://www.vmware.com)

**ヴィエムウェア株式会社**  
〒108-0023 東京都港区芝浦 3-1-1  
田町ステーションタワー N 18 階  
[www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

Copyright © 2022 VMware, Inc. All rights reserved. 著作権および商標情報。

# 目次

- 1 リリース バージョン 4
- 2 vRealize Automation 8.7 について 5
- 3 開始する前に 6
- 4 新機能 7
- 5 API ドキュメントとバージョン管理 11
- 6 解決した問題 15
- 7 既知の問題 18
- 8 変更された機能と廃止された機能 22

# リリース バージョン

# 1

vRealize Automation 8.7 | 2022 年 4 月 1 日

- vRA Easy Installer (ISO) ビルド 19527797
- vRA 製品 (アプライアンス) ビルド 19508505
- SaltStack Config ビルド 87010

## このドキュメントに対する更新

日付	更新の説明	タイプ
03/22/2022	初版。	
3/23/2022	CR スキーマ変更機能で使用する制約	既知の問題
3/23/2022	カスタム フォーム テキスト入力フィールドの値	既知の問題
3/23/2022	カスタム リソース オブジェクトを展開できない	既知の問題
3/23/2022	データグリッド セル内の複雑なアレイを詳細に可視化することはできない	既知の問題
4/08/2022	マシンをオンボーディングすると、リソース センターに重複するエントリが作成される	既知の問題
04/18/2022	カスタム フォーム レンダラで可視性のバインドが機能しない	既知の問題

# vRealize Automation 8.7 について

# 2

vRealize Automation 8.7 は、プロビジョニング済み展開のプロジェクトの変更、ABX On Prem エンジンの進化、クラウド テンプレート内のリソースとしての SaltStack Config の可用性、API を介したカスタム フォームによるカタログ アイテムのカスタム検証、SaltStack SecOps のカスタム修正など、さまざまな新機能によって vRealize Automation 8.6.2 の機能を補完しています。

# 開始する前に

# 3

サポート ドキュメントで製品について理解しておく必要があります。

- [vRealize Easy Installer を使用した vRealize Automation のインストール](#)
- [vRealize Automation でのユーザーの管理](#)
- [vRealize Automation 移行ガイド](#)

vRealize Automation をインストールしてユーザーを設定した後、含まれている各サービスについて、[スタート ガイド](#)と[使用と管理ガイド](#)を参照できます。[スタート ガイド](#)では、エンドツーエンドの事前検証について説明しています。[使用と管理ガイド](#)では、使用可能な機能の検証をサポートする詳細な情報を提供しています。[vRealize Automation 8.7 の製品ドキュメント](#)には、その他の情報も記載されています。

- [vRealize Automation Cloud Assembly スタート ガイド](#)
- [vRealize Automation Cloud Assembly の使用と管理](#)
- [vRealize Automation Code Stream スタート ガイド](#)
- [vRealize Automation Code Stream の使用と管理](#)
- [vRealize Automation Service Broker スタート ガイド](#)
- [vRealize Automation Service Broker の使用と管理](#)

vRealize Orchestrator 8.7 の機能と制限事項については、[vRealize Orchestrator 8.7 リリース ノート](#)を参照してください。

vRealize Automation 8.7 には次のような多くのメリットがあります。

## ABX オンプレミス エンジンの進化

ABX オンプレミスは、高度なパフォーマンスとスケーラビリティを備えた次世代のオンプレミス エンジンを使用するようになりました。新しい FaaS は大幅に高速化され、メモリ制限に関する多くの問題が修正され、メモリ ベースのスロットルが導入されています。追加のログ機能を使用することで、アクションの実行のトラブルシューティングも実行が容易になりました。

新しいオンプレミス エンジンでは、以下が強化されています。

- ABX オンプレミス アクションは、より安定した、スケーラブルで高速な新しい FaaS エンジンを使用します。また、古い FaaS エンジンを使用して検出された多くの問題も修正されます。
- ABX オンプレミス アクションの展開時間が短縮されました。これにより、アクションの開発を高速化できます。
- ABX オンプレミス アクションのメモリ制限は、共有ではなくアクションの実行単位になりました。その結果、メモリ ベースのスロットルにより、既存のすべてのアクションのメモリ制限はデフォルト値にリセットされます。並行するアクションの実行を共有することで作成された、メモリ制限の高い既存のアクションを許可すると、不要になった際に大量のキャパシティが使用されます。
- ABX オンプレミス アクションの実行ログに、完了したアクションの実行に関する追加情報が含まれるようになりました。ログの最後に追加のログ行があり、アクションの実行によって使用されたメモリを示します。これにより、適切なメモリ制限を設定できます。
- ABX オンプレミス アクションで、アクションの実行がタイムアウトになった場合にログが表示されるようになりました。これにより、タイムアウトになったアクションの実行を容易に調査できます。
- ABX オンプレミスでは、すべてのアクションの実行が個別のコンテナで実行されるようになったため、同一のアクションのアクション実行間の分離が向上しました。

## 指定した展開の展開プロジェクトの変更

プロジェクトを変更する Day 2 アクションが、プロビジョニング済みの展開で有効になりました。プロビジョニングした展開には、任意の数のマシン、ディスク、リソース グループ、ロード バランサ、ネットワーク、セキュリティ グループ、NAT、およびゲートウェイを含めることができます。プロビジョニングした展開が、前述のリソース以外を含むように更新された場合（Terraform 構成など）、またはオンボーディング/移行されたリソースを含むように更新された場合、プロジェクトの変更アクションは使用できません。リソースを削除すると、プロジェクトの変更アクションは再度使用可能になります。

- Day 2 アクションは、クラウド管理者のみに制限されます。

- マシンおよびディスクのクラウド ゾーンはターゲット プロジェクトに配置され、設定された割り当て制限に従っている必要があります。割り当ては初期プロジェクトから解放され、ターゲット プロジェクトで予約されます。障害が発生した場合、アクションは自動的にロールバックされます。
- 詳細については、[Day 2 アクション](#)を参照してください。

### SaltStack Config がクラウド テンプレート内でリソース タイプとして使用可能に

Salt ミニオンをキャンバスに直接ドラッグ アンド ドロップして、Day-0 操作でクラウド テンプレートの一部としてネイティブに展開および構成することで、SaltStack Config リソース タイプを 1 台以上の仮想マシンに接続できるようになりました。新しいリソース タイプは、左側のリソース メニューの [SaltStack] にあります。

### vRealize Orchestrator 用の vRealize Automation Plugin をバージョン 8.4.2 以降に更新

[VMware Marketplace](#) で更新されたプラグイン バージョンを利用できるようになりました。

このプラグインでは以下がサポートされるようになりました。

- マシンでの IaaS インベントリおよびオブジェクトのスクリプト記述
- マシンでの CRUD
- EntityFinders

vRealize Automation プラグインの詳細については[こちら](#)を参照してください。機能の詳細な説明については、新しい vRealize Orchestrator コミュニティ ページの「ドキュメント」セクションを参照してください。

### カスタム フォームによるカタログ アイテムに対するカスタム検証を API 経由でサポート

vRealize Automation で API を使用したカスタム検証がサポートされるようになりました。この新機能を使用すると、カスタム フォームと API を経由した外部検証を使用してカタログ アイテムを設計できます。ユーザーが API 経由でカタログ アイテムから展開を作成すると、検証が実行されます。検証が失敗した場合、API 応答に検証エラー メッセージが含まれます。

### SaltStack SecOps のカスタム修正

SaltStack SecOps でサポートされていないアドバイザリをインポートできるようになりました。カスタム修正ファイルは、自動修正用にアドバイザリに添付できます。[カスタム修正の詳細についてはこちら](#)を参照してください。

### SaltStack 構成ジョブの動的なジョブ入力

動的ジョブを使用して、IT の自動化および構成管理の成果の縮小、再利用、委譲を実行します。

### プロパティ グループのオプション入力

入力プロパティ グループでオプションの入力がサポートされるようになりました。プロパティ グループでは、デフォルトですべてのプロパティがオプションです。デフォルト値を持たないすべての非ブール値プロパティを必須としてマークには、目的のプロパティ グループに次のクラウド テンプレート プロパティを追加します：

populateRequiredOnNonDefaultProperties: true。前述のプロパティが省略されていた場合、または未設定の場合、すべてのプロパティはオプションと見なされます（これはデフォルトの動作です）。

### 移行した展開の展開作成日を保持

移行ツールによって移動された展開で、元の作成日が保持されるようになりました。

### ストレージで展開制限ポリシーをサポート



展開制限ポリシーが、Day-0 プロビジョニングと、ディスクのサイズ変更、追加、削除などの Day-2 アクションの両方でストレージの制約をサポートするようになりました。展開とポリシーの詳細についてはこちらを参照してください。

### インフラストラクチャ マシンとボリュームのビューの削除

[リソース] の上位タブの [リソース センター] で、インフラストラクチャ マシンとボリュームのビューが、仮想マシンとボリュームのビューに置き換えられました。マシン ビューの権限は使用できません。

### Marketplace の使用中止

vRealize Automation 内の Marketplace 統合は使用中止になりました。

### SSC SecOps: Ubuntu 20.04 および 20.10 のサポート

ユーザーは Ubuntu 20.04 および 20.10 システムをまたいでコンプライアンスを管理できるようになりました。

### ABX ベースのカスタム リソースのスキーマの変更とフォーマット

アプリケーション アーキテクトはカスタム リソース スキーマ パラメータを編集できるようになったため、展開ユーザー インターフェイスでより包括的な把握が可能になりました。パラメータと計算されるプロパティの両方が変更可能になりました。

制限事項：

- 現在、カスタム リソース タイプの詳細フォーム用のフォーム デザイナはありません。カスタム リソース タイプ用に表示されるフォームをカスタマイズする機能が必要な場合は、カスタム リソース タイプを手動で編集して保存する必要があります。

そのためには、フォーム定義コントローラに対して以下の API POST 呼び出しを実行する必要があります。

#### /form-service/api/forms

本文でフォームと、次のパラメータを指定します。

**type: deploymentResource sourceType: resourceType sourceId: Custom.YourResourceTypeHere**

必要に応じて他のパラメータも指定します。

- vRO ワークフローとカスタム リソース タイプの間に同期はありません。たとえば、作成ワークフローに新しい入力を追加しても、スキーマには自動的に表示されません。スキーマに移動しても、新しい入力を追加することはできません。これは、カスタム リソース タイプは作成時のワークフローのバージョンを使用して作成され、その定義を現在の時点で更新することができないためです。

動作：

- **プロパティ**の値を指定せずにカスタム リソース タイプを保存すると、選択した作成ワークフローに基づいてスキーマが自動的に生成されます。これは、スキーマがワークフローに基づいて生成される、vRO ベースのカスタム リソース タイプでのみ機能します。
- **計算されるプロパティ**を指定せずにカスタム リソース タイプを保存すると、エラーが発生します。このバージョンより前の動作では、新しいスキーマ（vRO ベースの CRT 用）が暗黙的に生成され、カスタム リソース タイプは正常に保存されていました。

**カスタム フォームで任意の入力または変数へのバインド フィールドと条件値をサポート**

カスタム フォーム フィールド/タブの可視性構成で、「バインド フィールド」値のソースがサポートされるようになりました。フィールドまたはタブの可視性を別のフィールドにバインドして、「プル値」（チェックボックスなど）を入力できるようになりました。

#### **カスタム フォーム アクションの Service Broker キャッシュ**

Service Broker は、内部キャッシュ メカニズムを利用することで、外部ソースの値を解決する最小量の要求をするようになりました。プロジェクト フィールドの変更時、キャッシュされたすべての値は消去されますが、現在の vRO 統合ではキャッシュはアクティブなままになります。重複する要求は、要求に関連するすべての情報に基づいて適切にマークされます。

# API ドキュメントとバージョン管理

# 5

製品で API ドキュメントを利用できます。1つのランディング ページからすべての Swagger ドキュメントにアクセスするには、<https://<appliance.domain.com>/automation-ui/api-docs> にアクセスします。

*appliance.domain.com* はご使用の vRealize Automation アプライアンスです。

API を使用する前に、本リリースでの API の最新の更新や変更を考慮し、使用する API サービスへの変更の有無に注意します。以前に `apiVersion` 変数を使用して API をロックしていない場合は、API 応答が変更される場合があります。このリリースにおける API のすべての更新内容と変更内容を次の表に示します。

API がロック解除されている場合、デフォルトの動作は API によって異なります。

- Cloud Assembly IaaS API の場合、`apiVersion` パラメータを指定せずに実行された要求はすべて最初のバージョン (2019-01-15) にリダイレクトされます。このリダイレクト処理により、以前に `apiVersion` パラメータを指定しなかったすべてのユーザーが、変更を中断することなく最新バージョンにスムーズに移行できます。

注：Cloud Assembly IaaS API の場合、最新バージョンは `apiVersion=2021-07-15` です。ロックしない場合、IaaS API 要求は最初のバージョン (2019-01-15) にリダイレクトされます。この最初のバージョンは廃止されており、12 か月間サポートされます。新しいバージョンにスムーズに移行するには、2021-07-15 に割り当てられている `apiVersion` パラメータを使用して IaaS API 要求をロックします。

- 他の API の場合、API 要求はデフォルトで最新のバージョンになります。Swagger の仕様に示されている以前のバージョンの日付の中の1つを選択すると、その日付で有効であり、次の最新バージョンの日付まで有効性が継続する API が API の動作に反映されます。API は vRealize Automation のリリースでバージョン管理されているわけではありません。また、すべての API が `apiVersion` パラメータをサポートするわけでもありません。

API のバージョン設定の詳細については、[vRealize Automation 8.7 API プログラミング ガイド](#)を参照してください。

サービス名	サービスの説明	API の更新点と変更点
ABX	アクションとそのバージョンの作成と管理、アクションとフローの実行など、ABX 固有のすべての機能が維持されます。	変更なし
承認	申請をプロビジョニングする前に展開または Day 2 アクションに同意する必要があるユーザーを制御するポリシーの適用	変更なし
ブループリント	VMware Cloud Templates (旧称ブループリント) の作成、検証、プロビジョニング	変更なし

サービス名	サービスの説明	API の更新点と変更点
CMX	vRealize Automation で Kubernetes を使用する場合に、Kubernetes クラスターと名前空間を展開し、管理します。	<p>新しい API エンドポイント :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指定した ID に関連付けられた K8SInstaller を取得するには、以下を実行します。 GET /cmx/api/resources/installers/{id}</li> <li>■ K8SResources のリソース固有のプロパティを取得するには、以下を実行します。 GET /cmx/api/resources/installers/{id}/properties</li> <li>■ 指定した K8SInstaller が所有する K8SResources のインストールをトリガするには、以下を実行します。 POST /cmx/api/resources/installers/{id}/install</li> <li>■ 指定した K8SInstaller が所有する K8SResources をロールバックするには、以下を実行します。 POST /cmx/api/resources/installers/{id}/uninstall</li> </ul>
Content Gateway (コンテンツ サービス)	インフラストラクチャに、SCM プロバイダなどの外部コンテンツ ソースのコード コンテンツとして接続します。	Marketplace および Marketplace Downloads API は削除されました。
カスタム フォーム (フォーム サービス)	Service Broker および Cloud Assembly VMware サービスの動的なフォームのレンダリングとカスタマイズ動作を定義します。	変更なし
展開	システムに展開されている展開オブジェクトとプラットフォーム、またはブループリントにアクセスします。	変更なし
IaaS	リソースの検証とプロビジョニングを含むインフラストラクチャのセットアップ タスクを繰り返し実行します。	<p>特定のフォルダにリソースを展開できるように、データセンター内のフォルダをリストする新しいエンドポイント :</p> <p>GET /iaas/api/folders</p>
移行	このサービスは、構成ファイルの情報に基づいて vRA 8 インスタンスを迅速にセットアップするために使用します (別名 : Zero-Setup)	変更なし
プロジェクト	プロジェクトの作成、管理、削除に関連するすべての機能が含まれています	変更なし
再配置	管理下の任意のクラウドから既存の仮想マシンを移動する際のポリシーとプランを定義します。	変更なし

サービス名	サービスの説明	API の更新点と変更点
カタログ	Service Broker カatalog アイテムおよびカatalog ソースにアクセスして、コンテンツの共有やカatalog アイテムの要求などを実行します。	変更なし
カタログ サービス (ポリシー)	Service Broker で作成されたポリシーを操作します。	変更なし
Code Stream のすべてのパイプライン サービス	これらの API は、Code Stream サービスへのアクセスを提供します。	変更なし

サービス名	サービスの説明	API の更新点と変更点
ID サービス	ID、アカウント、およびサービス管理の API のリスト。	<p>新しい API エンドポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織内のグループのロールを取得するには、以下を実行します。 GET /csp/gateway/am/api/orgs/{orgId}/groups/{groupId}/roles</li> <li>■ 組織からグループを削除するには、以下を実行します。 DELETE /csp/gateway/am/api/orgs/{orgId}/groups</li> <li>■ 組織ロールのリストを取得するには、以下を実行します。 GET /csp/gateway/am/api/orgs/{orgId}/roles</li> <li>■ 特定の組織のグループを取得するには、以下を実行します。 GET /csp/gateway/am/api/orgs/{orgId}/groups</li> <li>■ 組織内のグループのロールを更新するには、以下を実行します。 PATCH /csp/gateway/am/api/orgs/{orgId}/groups/{groupId}/roles</li> </ul> <p>組織内のすべてのサービス定義を取得する際に認証情報を必須とするように API 要求パラメータを更新しました。 GET /csp/gateway/slc/api/definitions 応答内の継承されたロールにグループ情報を表示するかどうかを示す API 要求パラメータ「includeGroupIdsInRoles」を追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ GET /csp/gateway/am/api/v2/orgs/{orgId}/users</li> <li>■ GET /csp/gateway/am/api/orgs/{orgId}/users</li> <li>■ GET /csp/gateway/am/api/orgs/{orgId}/users/search</li> </ul>
再配置サービス	onboardingBlueprintState に関する PATCH アクションに新しい制限が追加されました	変更なし

# 解決した問題

## 6

次の問題は、今回のリリースで修正されました。

- **管理者ロールに権限がない**

SaltStack Config が vIDM と統合され、管理者のロールを保持している場合は、ミニオンおよびミニオン キーの表示や、ミニオン キーの受け入れができません。

- **AWS Lambda で実行されている拡張性アクションがエラーで失敗する**

AWS Lambda サービスのマイナーな変更が原因で、次のエラーが発生して、AWS Lambda で実行されている拡張性アクションが失敗することがあります。

「com.amazonaws.services.lambda.model.ResourceConflictException エラー: 現時点では、この操作を実行できません。機能は現在、次の状態です: 保留中」

- **スナップショットから仮想マシンをプロビジョニングしても、ストレージ プロファイルで構成されている正しいデータストアに仮想マシンが配置されない**

スナップショットを使用して仮想マシンをプロビジョニングした場合、ストレージ プロファイルで構成されているデータストアに関係なく、仮想マシンはそのスナップショットが格納されている正しいデータストアに配置されません。

- **アップグレード後にセキュリティ ルールの再構成が失敗する**

アップグレード後、ユーザーが 3.x より前の NSX-T バージョンのプロトコルとポートを使用する新しいルールを使用してセキュリティ グループを再構成することはできません。

- **[申請] - [申請の削除の確認] 画面で括弧の位置エラーの問題が発生する**

複数の展開リソースが存在する場合、ポップアップ確認画面に括弧が予期したとおりに配置されません。

- **Azure および AWS ネットワークが欠落しているとマークされ、新しいネットワークとして再収集される**

AWS および Azure クラウド アカウント用に作成され、検出されたネットワークおよびセキュリティ グループを含む vRealize Automation ネットワーク プロファイルから、アイテム（ネットワークやセキュリティ グループなど）が欠落します。環境によっては、作成から数日後に欠落しているアイテムが表示されるようになります。アイテムの欠落は、列挙プロセスがクラウド アカウントとプロビジョニング エンティティ間の対応を検出できず、プロビジョニング エンティティを削除したことが原因で発生する可能性があります。

- **vSphere アダプタ - カスタマイズ仕様のない Windows マシンのネットワーク再構成が失敗する**

Windows OS を使用して展開した vSphere マシンを別のネットワークに接続するように更新する際に、クラウド アカウントにカスタマイズ仕様が指定されていないと、失敗します。失敗のエラー メッセージは次のとおりです。「vCenter Server からのエラー: 指定されたパラメータが正しくありません: fpec.identity」このエラーは、vRA がマシンが Windows であることを検出せず、Linux マシン用のカスタマイズを作成するために発生します。

#### ■ 特定のケースで CSV の値が文字列値に評価されない問題を修正

CSV 内の対応する値が次のいずれかである場合、文字列/パスワード タイプの列/フィールドを含む「Complex」値に値の不整合が発生します。

- 数値 - 値が文字列と見なされる場合でも、数値としての形式で記述されている。(例: 値を '12' とせず に 12 とします)
- false - 値を 'false' とせず に false と記述している。

#### ■ 他の値が変更されると、外部値「Complex」パラメータ CSV が削除される

解析ロジックのエラーにより、フォーム デザイナは、他のパラメータのいずれかの値が変更されるたびに「Complex」パラメータの設定値を削除していました。

#### ■ すべてのサービス定義エンドポイントの取得に権限を追加すると、一部のパイプライン ジョブが中断される

組織内のすべてのサービス定義を取得する (GET /csp/gateway/slc/api/definitions) ために Identity Service API エンドポイントにアクセスするには、申請で認証情報を指定する必要があります。

#### ■ RELEASE\_IPADDRESS\_PERIOD\_MINUTES トグルが組織に対応していない

IP アドレスの状態をリリース済みから使用可能に移行するためにグローバルに実行されるタスクは、組織に対応していません。1 つ以上のテナントにタイムアウトが構成されているマルチ組織/マルチテナント環境では、1 つの値のみが選択され、すべての組織に適用されます。

#### ■ ディスク タイプが管理対象外の Azure 仮想マシンでの Day 2 のディスク追加アクション

vRA は、独立型の管理対象外の Azure ディスクの作成をサポートしていません。そのため、ディスク タイプが管理対象外の Azure 仮想マシンでは Day 2 のディスク追加アクションは無効にする必要があります。

#### ■ ジョブ ID [] の Salt 構成の作成が失敗しました。エラー:: : Windows 仮想マシンでミニオンの展開または状態ファイルの実行に失敗しました。[Salt エラー: Salt を開始できませんでした]

Windows 仮想マシンでミニオンの展開が失敗し、以下の Salt 側のエラーが表示されます。

##### Salt 側のエラー:

```
"return": "Exception occurred in runner deploy.minion: Traceback (most recent call
last):\n File \"/usr/lib/python3.7/site-packages/salt/client/mixins.py", line 390, in
low\n data["return"] = func(*args, **kwargs)\n File \"/usr/lib/python3.7/site-packages/
salt/loader.py", line 1241, in _call\n return self.loader.run(run_func, *args, **kwargs)
\n File \"/usr/lib/python3.7/site-packages/salt/loader.py", line 2274, in run\n return
self._last_context.run(self._run_as, _func_or_method, *args, **kwargs)\n File \"/usr/lib/
python3.7/site-packages/salt/loader.py", line 2289, in _run_as\n return
_func_or_method(*args, **kwargs)\n File \"/usr/lib/python3.7/site-packages//sseape/runners/
deploy.py", line 589, in minion\n raise salt.exceptions.SaltException('Error in
```



```
installing salt minion - {}.format(str(ret))\nsalt.exceptions.SaltException: Error in
installing salt minion - {'salt-vm-windows-test-mcm612-187496514722': {'Error':

{'Not Deployed': 'Failed to start Salt on host salt-vm-windows-test-mcm612-187496514722'}}

}}\n",
"master_uuid": "a50dfade-26bf-42a5-be08-0b2d785af2c8",
"minion_id": "saltstack_enterprise_installer",
```

#### ■ READ 操作の例外が適切に処理されない

展開の反復的な更新でバックエンド エラーが発生した場合、一般的なエラー メッセージのみが表示されます。サーバ ログには、詳細なエラー メッセージが記録されます。しかし、例外が適切に処理されないため、ユーザー インターフェイスには一般的なエラー メッセージのみが表示されます。

#### ■ リソース ビューで申請トラッカが機能しない

[すべてのリソース] ページでマシンを選択し、Day 2 アクションを実行した場合は、手動で更新を開始しない限り、申請トラッカは表示されません。

# 既知の問題

# 7

このリリースには、次の既知の問題があります。

## ■ 8.5.1 および 8.6.0 へのアップグレードの開始に失敗した

vRealize Automation 8.5.0 システムで vRSLCM から vRealize Automation 8.5.1 以降への反復アップグレードを開始すると、アップグレード開始の約 1 分後にステージ 1 の「vRealize Automation のアップグレード/パッチ/内部ネットワーク」の手順で失敗します。前のアップグレードが正常に完了してもランタイム データを削除することができないため、アップグレードは「進行中」の状態のままになります。そのため、新しいアップグレードを起動できません。この問題は、長いホスト名 (FQDN) を持つシステムを vRA vRealize Automation 8.4.x から 8.5.0 にアップグレードした場合に影響する可能性があります。

**回避策：**このリリースでは、LCM によって事前チェックが行われ、問題が通知されます。回避策については、[ナレッジベースの記事 KB85965](#) を参照してください。

## ■ vRealize Automation 8.5 および 8.5.1 からのアップグレードが「重大なエラーによりアップグレードが終了しました」というエラーで失敗することがある

vRealize Automation 8.5 または 8.5.1 からのアップグレードが「重大なエラーによりアップグレードが終了しました」というエラーで失敗することがあります。ディスク容量チェックを行うと、/root の使用率が 100% または \*ほぼ\* 100% と表示されます。

**回避策：**回避策については、[ナレッジベースの記事 KB85864](#) を参照してください。

## ■ 仮想マシンの再オンボーディング時に、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスが内部 IP アドレス管理で割り当てられない

IP アドレスが正常に割り当てられたオンボーディング済みの仮想マシンを登録解除してから、すぐにオンボーディングすると、IP アドレスの状態が**割り当て済み**に戻らずに、**リリース済み**のままになります。

**回避策：**30 分間待ってから仮想マシンを再度オンボーディングして、IP アドレスを割り当てます。

## ■ カスタム フォームによるカタログ アイテムに対するカスタム検証を API 経由でサポート

ユーザーが vRA 8.6 を使用していて、ユーザー インターフェイスを使用してカタログ アイテム フォームの外部検証を行っている場合、vRA 8.7 にアップグレードした後に API を介してカタログ アイテムを申請すると、外部検証は実行されません。

**回避策：**Service Broker ユーザー インターフェイスで、カタログ アイテムに含まれるカスタム フォームに移動し、ユーザー インターフェイスの [保存] ボタンをクリックしてフォームを再保存します。カタログ アイテム ID とフォーム ID を特定し、「PATCH /catalog/api/admin/items/{catalog-item-id}」を使用してカタログ アイテムに formId をポピュレートすることもできます。

#### ■ SSC : マスター認証の失敗

RaaS インスタンスが実行されている場合、キー ローテーション エンジンは 24 時間ごとに jwt トークンの更新を試行します。特定の状況で、エンジンは期限切れの jwt トークンを更新せずに保持し、RaaS サービスに対して認証ができないことが原因で、[salt-master] サービスに 401 トレースバック エラーが発生します。これにより、SSC の特定のキーの機能が動作しません。

**回避策：**[salt-master] サービスを実行している仮想マシンで、次の操作を行います。

- a sseapi\_key.pub を削除します。

```
rm /etc/salt/pki/master/sseapi_key.pub
```

- b jwt 認証トークンを削除します。

```
rm /var/cache/salt/master/auth_token.jwt
```

- c salt-master サービスを再起動します。

```
systemctl restart salt-master
```

#### ■ SSC vRA 8.6.1 Windows ミニオンおよび状態ファイルの展開のサポートが機能しない

ミニオンのインストールが開始されるまでに、必要な Windows サービスがホストで実行されていないため、Windows へのミニオンのインストールが失敗することがあります。

**回避策：**SSC プラグイン バージョン 8.6.2 にアップグレードします。これにより、すべての必要な Windows サービスがアクティブになるまでの 180 秒の待機時間がデフォルトで導入されます。SSC プラグインのインストールについては、次のドキュメントを参照してください。[マスター プラグインをインストールして構成します。](#)

#### ■ SSC : ターゲット グループの検索を空白で開始すると、検索機能が機能しなくなる

ターゲット グループの検索を空白で開始すると、検索機能が機能しなくなります。動作が無制限に停止し、ターゲット グループを表示できなくなります。

**回避策：**ページを更新または終了します。ページを更新しないと、この機能は使用できず、ターゲット グループのデータグリッドにはアクセスできません。

#### ■ 制約が正しく適用されていない場合、お客様のリソースでエラーが発生することがある

プロパティ スキーマで、配列フィールドのアイテム セクションまたはオブジェクト フィールドのプロパティ セクションに制約を追加する場合は、これらの制約が検証済みであることを確認します。不適切に適用された制約は、カスタム リソースで問題を引き起こす可能性があります。たとえば、数値配列に最大値の制約を追加する場合は、その制約がプロパティのデフォルト値に反していないことを確認する必要があります。

#### ■ 展開の詳細ビューのフォーム レンダラで長い入力の一部が表示されない

カスタム リソース スキーマの変更機能の一部として、展開の詳細ビューにフォーム レンダラが追加されました。テキスト入力フィールドの値が長すぎる場合、値は完全には表示されません。値は切り取られ、ユーザーが値全体を表示する際に使用できるスクロール バーは非表示になります。

#### ■ カスタム リソース オブジェクトの展開/折りたたみを実行できない

カスタム リソース スキーマの変更機能の一部として、展開の詳細ビューにフォーム レンダラが追加されました。以前のオブジェクト構造は折りたたみ可能でしたが、オブジェクトの見出しと内容がすべて整列され、折りたたむことができなくなりました。

#### ■ 展開の詳細ビューのフォーム レンダラで複雑な配列が適切にレンダリングされない。

カスタム リソース スキーマの変更機能の一部として、展開の詳細ビューにフォーム レンダラが追加されました。データ グリッド フィールドにオブジェクトの配列が格納されている場合、配列はテーブルに「[オブジェクト, オブジェクト]」の形式で表示されます。

#### ■ マシンをオンボーディングすると、リソース センターに重複するエントリが作成される

マシンをオンボーディングすると、マシンのエントリがリソース センターに重複して作成され、1つのエントリが「検出済み」状態に、もう1つのエントリ「オンボーディング済み」状態になります。これは、プロビジョニング サービス インベントリにマシンのレガシー ID が含まれている場合に発生するオンボーディング エラーを修正したことによって発生する回帰問題です。プロビジョニング サービス インベントリにマシンのレガシー (非 UUID) ID が含まれている場合は、リソース センターに重複するエントリが引き続き生成されることがあります。この場合は、これらのエントリを手動でクリーンアップする必要があります。

**回避策:** プロビジョニング データベースにマシンのレガシー ID が含まれている場合に限り、オンボーディング時に新しい UUID が生成されるようコードを修正しました。この条件に該当しない場合は、オンボーディング時にマシンの元の UUID が使用され、重複は発生しません。この修正が本番環境に適用される前 (2/15 ~ 2/22) に 8.7 でマシンをオンボーディングした場合、重複するエントリを削除するには、マシンを登録解除してから再度オンボーディングする必要があります。マシンを登録解除できない場合は、これらの重複するエントリを手動で削除することもできます。

レガシー (非 UUID) ID を使用してマシンをオンボーディングした場合もリソース センターに重複するエントリが作成されるため、これらのエントリを手動で削除する必要があります。レガシー ID を使用するマシンは一般的ではなく、vRA8 の初期の (8.2 より前の) バージョンで検出されたマシンにのみ影響します。これ以降のバージョンで検出されたマシンには UUID が設定されているため、影響はありません。これらのマシンはオンボーディングしないことをお勧めします。代わりに、ナレッジベースの記事 [KB88162](#) に記載されているプロセスに沿って vRA からマシンへのアクセス権を一時的に削除し、UUID による再検出および通常の方法でのオンボーディングを許可することをお勧めします。

#### ■ カスタム フォーム レンダラで可視性のバインドが機能しない

可視性バインド オプションは、バージョン 8.6.2 以降のフォーム デザイナでリリースされましたが、フォーム レンダラには実装されていないため、機能しません。

#### ■ クラウド テンプレート内に誤ってドロップまたは配置された要素により、ユーザー インターフェイス ページが破損する

Firefox でドラッグ アンド ドロップを使用すると、ページがリダイレクトされる場合があります。リソース ノードをキャンパスの外部にドラッグ アンド ドロップした場合でも、Firefox でページ リダイレクトが発生することがあります。

**回避策：** リソースはキャンパス内にドロップしてから削除します。

- **拡張性アクションに基づくカスタム リソースでカスタム リソース サブスクリプションを使用できない**

vRealize Automation 8.5.1 で拡張性アクション ベースのカスタム リソースが導入されましたが、この機能にはいくつかの制限があります。たとえば、クラウド管理者がイベント ベースのサブスクリプションに拡張性アクション ベースのリソースを含めることはこれまでと同様にできません。

- **拡張性アクション ベースのカスタム リソースの展開更新中にタイムアウト例外が表示される**

拡張性アクション ベースのカスタム リソース展開を更新すると、「504 ゲートウェイのタイムアウト問題」というエラーが表示されることがあります。このエラーは、拡張性アクションの読み取りが失敗した場合に表示されます。

## 変更された機能と廃止された機能

# 8

なし